

調布の味の素スタジアムは、原発からの放射線被ばくから避難されてきた方々でいっぱいでした。

目に見えない放射線の恐怖を背負い、いつ我が家に帰れるとも予測のつかない事態に誰もが不安にされていました。

その一角で子どもが遊んでいる姿をみかけたので、私は思わず近寄り絵本の読み聞かせをし、一緒に歌いながら手遊びをしました。子供たちの無邪気な声が天井に響き渡りました。この子どもたちがいつも笑顔でいられる平和で安全な国でなくてはならないと、強く感じた1日でした。

### 子どもたちの笑顔を守るのが私の使命

私たちの杉並区でもいつ想定外の災害に遭遇するか誰もわかりません。そのもしもの想定外の災害の備えをするのが、行政であり、政治であると思います。

今回の大災害では、自治体によっては庁舎や職員も被災して機能不全に陥っているところも数多くあります。万が一庁舎が機能不全となってもすべての人がお互いにすべての人を守り合える地域・杉並にしたいというのが私の願いであり、誓いです。赤ちゃんから高齢者までの笑顔を守るために、千年に1度という大災害を契機にもう一度身の回りの防災について見直していきたいと思えます。



避難所で子供たちに読み聞かせ。子供たちの笑顔に逆に励まされる。



杉並区では

## 乳児1人ずつにペットボトル3本各戸配布を実施



渡辺康江さん(長女 光江ちゃん(生後7カ月))「公明党の配慮で安全な水を確保できました。」

3月23日に水道水から放射性ヨウ素が検出されたことから乳児の摂取を控えるよう東京都は発表。これを受けて都議会公明党は直ちに東京都に対して乳児に24万本のペットボトル配布を要請し実現。杉並区公明党では里帰り乳児にも配布することを要請し実現させました。

杉並区に住む渡辺康江さんは、「乳児に水を飲ませられないというニュースを見て、びっくりしました。実は、直前に買い物に出て、「今日は水を買おうか」と迷い、結局、買わなかったからです。一時は「放射性物質入りの水を飲ませても仕方ない」とまで思いましたが、ペットボトルを配布いただき安心しました。さすが「生命を守る公明党」だと改めて思いました。」と語っていました。

### 福島県南相馬市民の心と体のケア

杉並区では災害時相互援助協定をむすんでいる福島県南相馬市へ2トン車4台分の救援物資を輸送しました。また、福島県南相馬市の市民約400人を、群馬県東吾妻町にある区の施設に受け入れ。区の保健師2名を派遣し健康相談を実施しています。



3月14日、区議会公明党は田中区長に計画停電の周知と節電の推進などについて緊急申し入れしました。

### 区議会公明党のナイスショット!

#### 災害時に耐え得る区の業務継続計画(BCP)の策定を実現

2010年に区議会公明党の提案で災害時における区のコンピューターデータ保存のバックアップ体制が策定されました。現在、いざという災害時のために埼玉県の情報センターに杉並区のデータは保存されています。

横山えみ 区民相談ホットライン 090-2758-8746

☎ 3312-2111 Fax 3312-2710 議会運営委員会副委員長・文教委員・道路交通対策委員

